

1. 演題名 『研究・発表・論文のノウハウと歯科技工』

歯科技工士の職務は歯科医療の一翼を担う反面、製作・加工・修理を行うための職業という面があり、私達の受けた歯科技工士教育もこれに特化し実務に重きを置いた職業教育となっています。

現代科学をベースにした技術は、過去の研究やノウハウを積み上げた上に新たな1ページを加えながら進歩してきました。後進や後世に伝えるためには“伝えるため”のリテラシーが必要になります。私達の新たな一歩が次世代の進歩に繋がるといっても過言ではないでしょう。歯科技工の技術や優れた考案も、次世代に伝えていかなければ進歩・発展は望めません。

自身の考えを、他人に正しく、誤認識を避け伝えるためには一定の形式や手順を踏まえなければなりません。今回は、私が今迄に様々な先生や先輩に師事し、教えを乞いながら自分なりに考えて来た「他人に伝えるためのポイント」や、研究活動や論文執筆を進めるためのヒントをお話したいと思います。

2. 演題名 『口腔リハビリテーションとしての歯科技工』

健常な状態と要介護状態(日常生活でサポートが必要な状態)の中間の状態として、2014年に日本老年医学会が、高齢者が筋力や活動が低下している状態(虚弱)を「フレイル(Frailty)」と呼ぶことを提唱した。多くの高齢者は健常な状態から、フレイルの時期を経て要介護状態に至る。口腔領域では日本歯科医師会が中心となり、現在オーラルフレイル対策が進行しつつある。

疾病やオーラルフレイルを予防・抑制することと歯科医療・歯科技工との関係等、口腔顎顔面リハビリテーションや歯科医療を根底から支える歯科技工士の重要性はより一層高まっている。大学医学部の附属病院の歯科技工室から見た多様な歯科技工の一部を紹介したい。